

総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会
持続可能な開発目標達成のための洋上風力発電開発検討小委員会
(第 26 期・第 2 回) 議事要旨

1. 日 時 令和 6 年 10 月 31 日 (木) 15:00～17:00

2. 開催方法：日本学術会議会議室（6 A-1）及びオンライン（ハイブリッド開催）

出席者：大久保、松島、佐々、野村、岡田（現地）

高田、川村、木戸、小澤、竹内、笠（オンライン）

3. 議 題

1) 議事要旨確認

2) セントラル方式について

岡田委員より、日本版セントラル方式の概要、案件形成のステップと国・自治体の役割分担、サイト特性調査を行う上での課題（気象・台風、テクトニクス環境、地質・地形、地震・火山など）、セントラル方式で実施する調査の目的・目標（調査仕様）、風況調査・気象海象調査・海底地盤調査内容、及び、調査成果の公知について説明があった。

✓セントラル方式の調査は、ジオハザードの検知を目的とはしないが、液状化、地すべりなどのジオハザードの可能性が検知された場合は、情報として提供する。

✓セントラル方式の調査データを提供する先は、海域公募に参加する発電事業者である。

✓セントラル方式の調査におけるグリッド間隔は、基本仕様であり、その後の発電事業者による詳細調査で詳しく評価する。

✓風車のレイアウト・位置による地盤調査は事業者が行う。その際、ジオハザードリスクを適切に評価する必要がある。

✓セントラル方式の対象は、着床式・浮体式の双方。

✓対象海域全体と風車位置双方の調査が必要。

✓第 2 期の委員会では、調査法・手順等を含む海底地質リスクの評価予測・対策のあり方・考え方を提示する。

3) 公開シンポジウム（2024 年 11 月 14 日開催予定）について

✓オンサイトとオンラインのハイブリッド開催。

✓講演 PPT は、日本語・英語併記とする。

✓IUGS(国際地質科学連合)からの挨拶は、シンポジウム中盤にオンラインで行う。

✓パネルディスカッションでは、各セッションのまとめを提示し、2023 年 9 月発出の見解をふまえた今後のリスク評価予測・対策のあり方・考え方を議論する。

4) IGC2024 報告

佐々・川村両委員より、2024 年 8 月に韓国釜山で開催された万国地質学会議における洋上風力および海底地質リスクに関する 2 つのセッション報告がなされた。

5) その他

- ✓ 次回委員会では、詳細地盤調査に関する複数の話題提供、欧米の対策に関する話題提供を行う。
- ✓ 次回の委員会は来年 1 月末から 2 月初旬頃。

以上